

第3ブロック研究部

NO. 1

令和7年度 研究主題

遊びの中の育ちと小学校教育とのつながりを考える ～幼児が夢中になって遊ぶ姿から～

幼稚園教育要領解説に、「幼稚園教育は、小学校以降の子どもの発達を見通しながら教育活動を展開し、幼稚園教育において育みたい資質・能力を育むことが大切である」と示されている。

第3ブロック研究部では、幼児が夢中になって遊ぶ姿から幼児の「育ち」に焦点をあてて分析し、小学校教育とのつながりについて探っていきたい。

17園で共同研究しています

愛珠 銅座 玉造 中大江 桃園 南 九条 鞠 日吉 三軒家西
日東 立葉 粉浜 住吉 墨江 玉出 天下茶屋

第1回月 研究部会

令和7年5月21日（水）

場所：三軒家西幼稚園

内容

- ・部長あいさつ
- 研究の進め方について
- ・園紹介
- ・講話

今年度の

研究保育

・日吉幼稚園

6月18日

・粉浜幼稚園

9月17日

○研究の進め方について（部長より）

- ・今年度は、各幼稚園で普段から実践されている遊びの中の幼児の育ちに焦点をあてる。
- ・各園で実践記録を基に、幼児の育ちを読みとることを、教師の学びとし資質向上につなげる。
- ・子どもたちの育ちが小学校の教育にどのようにつながっているかを探る。

講話 「遊びの中の育ちと小学校教育とのつながりを考える

～幼児が夢中になって遊ぶ姿から～」

大阪市教育委員会事務局 初等部 初等・中学校教育担当 総括指導主事

○研究主題について

文部科学省が推進している「幼保小架け橋プログラムの手引き」に、5歳児から1年生の2年間を架け橋期と称し、幼保小が意識的に協働して教育の充実をはかること、幼児教育施設においては、小学校教育を見通して、主体的、対話的で深い学びなどに向けた資質能力を育むことの必要性が示されている。

幼稚園教育要領解説には、「真の意味で発達を理解することは、それぞれの幼児がどのようなことに興味や関心をもってきたか、自分のもてる力をどのように発揮してきたか、友達との関係がどのように変化してきたかなど、一人一人の発達の実績を理解することである」とある。教師は幼児と生活を共にしながら、その幼児が今何に興味をもっているのか、何を実現しようとしているのか、何を感じているのかなど捉え続けることが大切である。この様に、幼児理解を深めることができ、一人一人の幼児の育ちをみるとそこに繋がると考える。

○記録について

幼児理解を深め、幼児の育ちを読みとるための重要な役割は記録である。
聖心女子大学 河邊貴子教授は、幼児と関わる中で、驚きや喜びを記録し、幼児の育ちを読みとて次の援助につなげるためにSOAPという視点を提案している。

S・・・教師が見た幼児の姿を記述する。

O・・・客観的に見つつも保育者が受け取った感情を交えて幼児の姿を読みとる。

A・・・保育者の願いを記述する。

P・・・保育者の願いに応じて次に求められる環境の構成を記述する。

SOはその日のことを振り返り、子どもの遊びや活動の中で学んでいることを捉える視点、APは次の援助を考える視点である。理解から援助への視点が保育の中に組み込まれることで、根拠をもって次の保育につなげができると示されている。

教師は、幼児の具体的な姿を浮かべながら記録を取り、明日の保育に思いを巡らしていくことで、保育の方向性が適していたか確認して翌日の保育へつなげていくことができる。

○幼稚園教育と小学校教育とのつながりについて

小学校の教師と幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を手掛かりに子どもの姿を共有するなど、幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続を図ることが大切である。円滑な接続のためには、幼児と児童の交流の機会を設け、連携を図ることが大切であるが、その状況は各園様々である。小学校教育を見通して、主体的・対話的な深い学びなどにむけた資質能力をそれぞれの園で育くんでいけるよう、自園の教育を充実につなげ、幼稚園の先生が小学校教育について理解を深めることができることが非常に大切である。